

時のかげらと出逢いを探しに行こう

さかわ観光協会

〒789-1201 高知県高岡郡佐川町甲1474番地
TEL 0889-20-9500 FAX 0889-20-9501
<https://sakawa-kankou.jp>

佐川町役場

〒789-1292 高知県高岡郡佐川町甲1650番地2
TEL 0889-22-7700(代) FAX 0889-22-1119
<https://www.town.sakawa.lg.jp>

佐川町観光ガイドブック

さかわの^{しおり}木

高知県佐川町

2021.11.改訂

いいにしろえの趣残る 文教のまち

藩政時代、山内家の筆頭家老、深尾氏が城下町として築き上げ、
栄えてきた佐川町。
まちのあちこちに、時代の息吹が感じられる場所がたくさん残されています。
歴史のかげらを探しに、伝統を大切に守る人々と出逢いに、
さかわのまちへ出かけてみませんか。

目次

上町

- 上町地区03
- 上町周辺マップ15

各地区

- 佐川地区19
- 斗賀野地区21
- 尾川地区23
- 黒岩地区25
- 加茂地区27

桜

- 佐川の桜29

文教

- 文教人の魂に触れる31
- 田中光顕33
- 牧野富太郎35
- 文教人・偉人37

食・宿

- 佐川の味と宿39

アクセス

- マップ & アクセス41



上町地区

藩政時代の風情を
いまに伝える
酒蔵の町並み

佐川町の中心部にある上町（うえまち）地区は、城下町として栄え、主に商人が居を構えたまちでした。

その風情は、いまでも受け継がれ、伝統的な商家住宅や酒蔵などが町並みを形成しています。

春の光に誘われて、金峰神社に。牧野富太郎博士が愛したバイカオウレンが、可憐な姿を現します。

夏の暑さを癒すのは「土佐の名水40選」にも名を連ねる西谷の清水。古くから書道や茶道用の水として利用され、いまでも文教のまちを潤しています。

紅葉の時期には、美しく色づいた青源寺の名園を楽しむことができます。

冬の酒蔵通りを歩けば、風がほのかな新酒の香りを運んでくれます。

四季折々、うれしい発見ができるまちです。

平成21（2009）年には、佐川町歴史的風致維持向上計画の重点区域に、認定されました。



まちの誇り受け継ぐ 伝統の酒造り

上町地区を歩くと最初に目に入ってくるのが、風情ある酒蔵。

東西に延びる「酒蔵の道」には、江戸時代に建てられたものから、最近のものまで、それぞれの時代を見つめてきた蔵がたくさん並んでいます。中でも、大きな煙突の下にある蔵は日本有数の長さで、全長85メートル。ここには出荷前のお酒が眠っています。

山内家に伴い土佐に入国し、佐川一万石を与えられた深尾氏は、入国の際、お抱えの酒造り職人を伴ってきたと言われています。

山紫水明の地であり、清流仁淀川の伏流水など、清らかな水に恵まれていたため、その醸造技術と良質の天然水が融合し、数々の銘酒がつくられ、酒のまちとして発展してきました。

現在では、伝統を受け継ぐ司牡丹酒造株式会社が、芳醇な香りの酒造りを続けています。

天下の芳醇なり、今後は酒の王たるべし

司牡丹酒造株式会社

土佐藩筆頭家老、佐川領主深尾氏に従って来た御酒屋が、慶長8(1603)年より創業した造り酒屋。400余年の伝統正しい醸造により生み出される土佐を代表する日本酒には、有名人のファンも多い。

所 高岡郡佐川町甲1299
問 0889-22-1211



司牡丹酒造のお酒のショールーム

ギャラリーほてい

かつては料亭で詩文や書画を愛する人々の社交場となっていた。店内には司牡丹のお酒はもちろん、酒器、和雑貨なども並び、酒を愛する生活文化、食文化の形を提案してくれる。大切な方への贈り物をじっくり選んでみても。

休 年末年始(年末年始以外は営業)
営 9:30~13:00・13:45~16:30
問 0889-22-1211



竹村家住宅

「酒蔵の道」を東へ歩いていくと、左手に見えてくるのが、国指定重要文化財「竹村家住宅」です。江戸時代より造り酒屋として栄えた商家で、格式高いその佇まいは、往時を思い起こさせます。

店舗部（東棟）は安永9（1780）年頃、座敷部は天保9（1838）年の建築といわれています。

上座敷と東棟からなる住宅は、徳川幕府の巡検使の宿としても使われ、意匠を凝らした欄間など、武家住宅に匹敵するような上質の座敷が特徴です。

和紙張り仕上げの貼り付け壁、付書院の花頭窓など、土佐でしか見られない独特の建築様式も残されています。

竹村家の家業は順調に運び、江戸時代後期には領主深尾家に多額の資金調達をするほど、佐川屈指の商家となりました。宝暦13（1763）年には名字帯刀を、明和7（1770）年には、「黒金（くろがね）屋」の屋号を許されました。

建築物としても、町の歴史を知る上でも、大変貴重な住宅です。



酒のまちの礎築く
古き良き伝統家屋



青山文庫

せいざんぶんこ

所 高岡郡佐川町甲1453番地1

休 月曜日(年末年始:12月29日から1月3日)

※祝日の場合は開館し、翌日は休館。

営 9:00~17:00(入館は16:30まで)

問 0889-22-0348

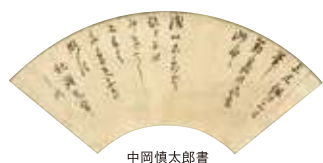
料 一般:400円(団体300円)

中高生:200円(団体160円)

小学生:100円(団体80円)

※団体は20名以上

P 有



中岡慎太郎書



田中光顕書



深尾重愛所用陣羽織



スミス・アンド・ウェッソン2型



江戸時代中期頃に作られた
旧深尾家臣土方家の庭園 九如園



武市半平太書



坂本龍馬の手紙

龍馬の署名(手紙より一部拡大)

「酒蔵の道」から牧野公園方面へ、南に曲がると、高台に見えてくるのが、「青山文庫(せいざんぶんこ)」です。ここには、江戸時代の佐川の様子を知る貴重な手がかりとなる、領主深尾家に関する資料などが多数展示されています。

明治43(1910)年に当時の佐川郵便局長、川田豊太郎の私設図書館として創立。大正14(1925)年、その活動に感銘を受けた佐川町出身の田中光顕が基金や蔵書などを寄贈し、幕末の貴重な資料も多数収蔵した博物館として発展してきました。

「青山文庫」の「青山」は、田中光顕の雅号から付けられたものです。

田中光顕は、土佐勤王党に加盟し、陸援隊で中岡慎太郎を補佐。維新後は宮内大臣を長期間務めるなど要職に就きながら、幕末維新の生き証人として、志士の顕彰などに務めました。

夢半ばで倒れた坂本龍馬や中岡慎太郎、武市半平太などの志士たちの書状や画など、同時代を生きた者の手で伝えられた資料群には、歴史の重みを感じられます。



本物の史料が物語る
熱量高い維新の記憶



土佐山内家筆頭家老深尾家の菩提寺

青源寺

慶長8(1603)年佐川領主、深尾家の菩提寺として創建された、臨済宗妙心寺派の寺院。庭園は乗台寺と共に土佐三名園の一つで県指定名勝。枯淡の味わい深い庭園で、禅林の風格を持った簡素さが特徴。春は桜、秋は紅葉の彩りが非常に美しい。

所 高岡郡佐川町甲1460

上町地区を歩くと、全身で歴史と文化を感じることが出来ます。
藩政時代の活気を思わせる「旧竹村呉服店」、文教の歴史を今に伝える佐川文庫庫舎など。
長い時代を見守ってきた、その凛とした佇まいを見ていると、思わず背筋が伸びてしまいそう。
青源寺の名園は、やわらかな春の日差し、風薫る若葉のころ、彩り豊かな紅葉のころ、枯淡な味わいのある冬、それぞれに魅力があり、見る者の心を惹きつけます。



佐川ルネサンス文化の源泉

西谷の清水

土佐の名水40選。
植物学者牧野富太郎生誕地の角を南に折れ、道に沿って溪流周辺の西谷地区に湧く清水。古くから書道、茶道用の水として愛されてきた。傍らに「むすぶより早や齒にひびく清水哉」と記された芭蕉の句碑〈俳人・橋本玄黙安政元年(1854)墨入れ〉がある。

所 高岡郡佐川町甲上町



マルキュウの呼称で通った竹村呉服店の建物

竹村分家旧竹村呉服店

幕末～明治初期の建物。竹村呉服店の建物でこの竹村家は隣接の竹村本家から安永6(1777)年分家されたもので、当初、質屋、のち呉服及び雑貨商を営む。三代安七の頃には土佐西部で唯一の絹物商として繁栄した。現在は雑貨販売、喫茶を営むキリン館が営業中。

所 高岡郡佐川町甲1300 **営** 10:00～18:00
休 火・水曜日 **問** 0889-22-9160



明治期の洋風木造建築

佐川文庫庫舎(旧青山文庫)

鹿鳴館時代の面影を残した、木造洋館といわれている。須崎警察署の佐川分署としてもと上町西方の山側にあった。青山文庫、佐川文庫、民具館と用途を変えながらも町民に愛されている。平成21(2009)年に現在の場所に移築。

所 高岡郡佐川町甲1473
問 0889-20-9500(さかわ観光協会)



織りなす歴史 守り抜いた証



お土産購入や休憩にどうぞ 国登録有形文化財

旧浜口家住宅

江戸中期より佐川で酒造業を営んだ浜口家の住宅。
平成25(2013)年に改築され、観光客を迎える施設として整備された。
さかわ観光協会がお土産販売として運営、上町の名所12カ所を多言語の音声で案内する上町音声ガイド(有料・予約不要)の貸し出しもやっている。

所 高岡郡佐川町甲1472番地1
休 月曜日
(年末年始:12月29日から1月3日)
※祝日の場合は開館し、翌日は休館。
営 9:00~17:00
※カフェ営業時間 10:00~16:00
間 0889-20-9500
(さかわ観光協会)

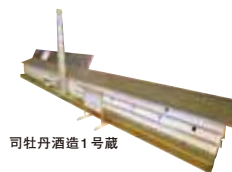


古地図で楽しむ佐川の町

佐川まちの駅

NPO法人佐川くろがねの会が運営する建物で
中では、上町の歴史を知ることができる。
くろがねの会は、観光ガイド、イベント開催、歴史の
研究、食の研究など、歴史・町並みを活用した
活動をしている。
竹村家の一般公開(国の重要文化財)
毎月第2日曜日 10:00~15:00

所 高岡郡佐川町甲1286
間 ガイドのお申し込みは
0889-20-9500(さかわ観光協会)



司牡丹酒造1号蔵

竹村家住宅

歴史的建造物(1/20サイズ)を一同に展示

地場産センター

2階では佐川町の模型作家、栗田眞二さん作成の町並み模型が
展示されている。上町の建物が内部まで緻密に再現されており、
その精巧さにはまさに驚きの一言!
同じく2階には喫茶「梅花黄蓮」も営業中。

所 高岡郡佐川町甲1532
休 火曜日
営 9:00~16:00(地場産センター)/8:30~14:00(梅花黄蓮)
間 0889-22-7708(佐川町産業建設課)
P 有

ばいかおうれん

“歴町さかわ”の観光拠点

うえまち駅

上町の観光拠点であり、さかわ観光協会も併設されている。
施設内に展示されている「口481号客車」は、かつて青山文庫
(現佐川文庫倉庫)の隣で資料閲覧室として長らく町民に愛され
活用されていた。往時の風景を再現し、偉大な先人が残してくれた
「町民の宝物」として大事に後世へ繋いでいく。他にも、日本
近代土木の先駆者である廣井勇顕彰展示もされている。

所 高岡郡佐川町甲1474番地
休 月曜日(年末年始:12月29日から1月3日)
※祝日の場合は開館し、翌日は休館。
営 9:00~17:00
間 0889-20-9500(さかわ観光協会)



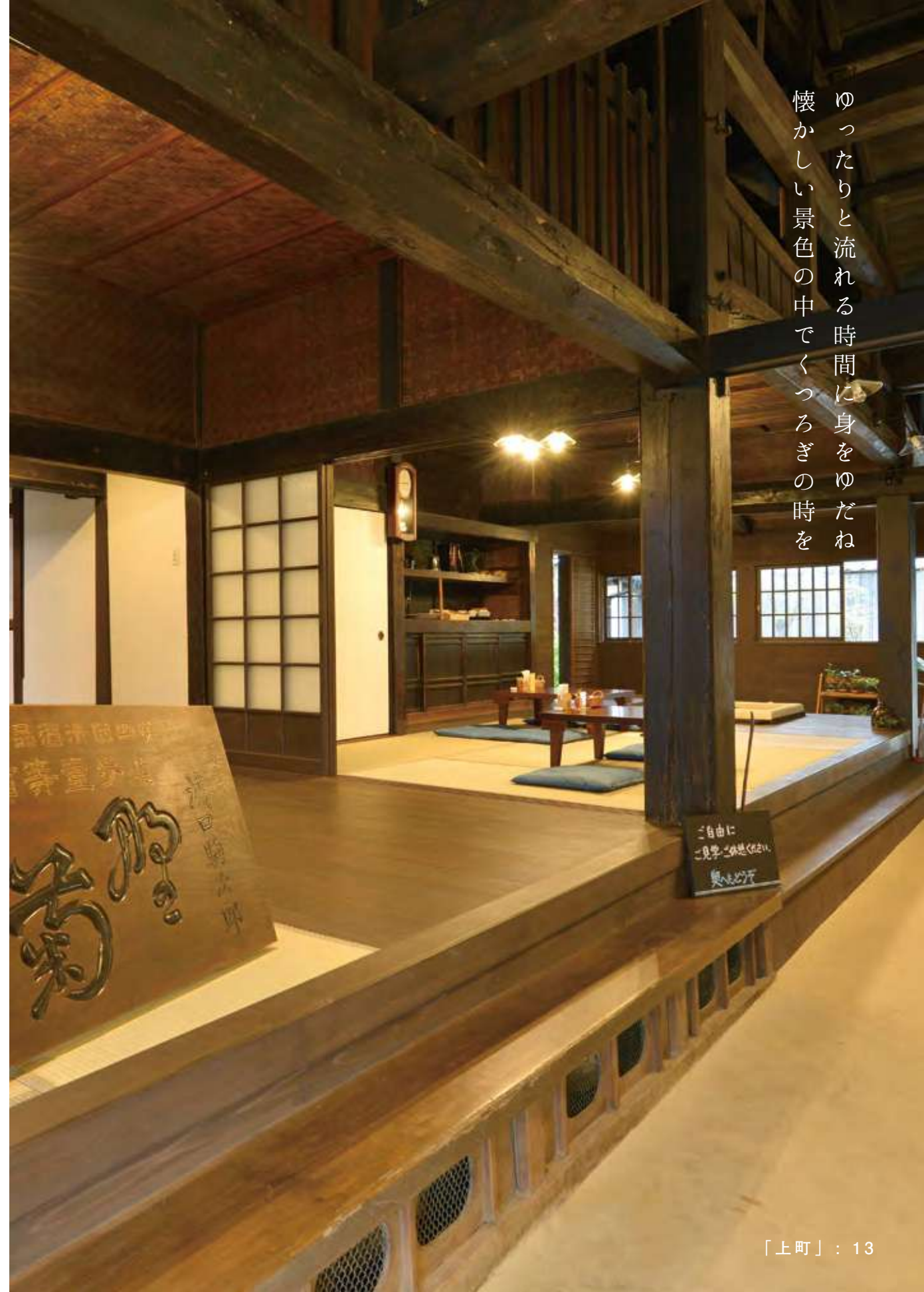
大正二年創業のうなぎ専門店

大正軒

完全予約制で、到着に合わせて料理を
出してくれ、すべて個室で味わえる。
食べ応えのある、肉厚でぷりぷりとした
身と、秘伝のタレが絶妙に絡み合う蒲焼き
は絶品で、ファンも多い。



所 高岡郡佐川町甲1543
休 日曜日
営 昼 11:30~14:00
夜 17:00~20:00
(L.O 19:00)
間 0889-22-0031
(2名様より要予約)
P 有



ゆったりと流れる時間に身をゆだね
懐かしい景色の中でくつろぎの時間を

● 佐川町商工会

● 佐川町役場



至 西佐川

春日川

上町周辺マップ

至 襟野々



西町

※車両通行不可

※車両通行不可

※車両通行不可



JR佐川駅



ビジネスホテル
かりえ

至 国道33号・高知市

米日旅館

旅館明清館

土井八枝生家

旧高根邸
製紙原料問屋蔵

大正軒

地場産センター

佐川郵便局

四国銀行

観光用
駐車場
P

司牡丹酒造1号蔵

竹村家住宅

旧竹村呉服店
(キリン館)

司牡丹酒造

佐川町鳥瞰図

竹村家蔵

佐川まちの駅

上町

うえまち駅
(さかわ観光協会)

佐川文庫庫舎

(災害時避難場所)
名教館

旧浜口家住宅

ギャラリーほてい

酒蔵の道



東町

494

名教館跡

至 須崎市

金峰神社



西谷の清水



旧西谷退三邸



青源寺

花園保育園

牧野公園

座敷棟

花見棟

青山文庫

恵美須神社

牧野富太郎の墓

田中光顕の墓

物見岩





積み重ねられてきたのは
時、そして故郷への想い

土佐藩筆頭家老深尾氏の城下町として栄えた佐川町は、江戸期から綿々とその伝統を守る
造り酒屋の酒蔵や旧商家を中心に風情ある町並みが形成されている。

白壁に、光と色彩が舞う



さかわ・酒蔵ロード劇場

上町・酒蔵の道の白壁に投影された数々の作品が、情緒溢れる町並みを幻想の世界へと
変貌させる。佐川のまちに現れる一夜限りの町並み美術館。



土佐の三名園のひとつ

乗台寺

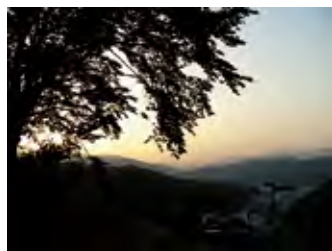
南北朝時代に建立された、佐川最古の寺院。真言宗智山派。「ひさご園」と呼ばれる庭園は藩政初期、領主深尾氏夫人の難病を治癒したこの寺の靈験により、その快起と解願祝をかねて造園されたといわれている(県指定文化財)。
青源寺庭園と並び土佐三名園の一つである。

所 高岡郡佐川町甲1746



牧野富太郎博士ゆかりの

牧野公園



所 高岡郡佐川町甲360
休 月曜日(年末年始:12月29日から1月3日)
※祝日の場合は開館し、翌日は休館。
営 9:00~17:00(入館は16:30まで)
問 0889-22-5500
料 一般:300円(団体240円)
小中高生:100円(団体80円)
※団体は20名以上
P 有



ナウマンカルスト

ドイツの地質学者エドモンド・ナウマンに因んだナウマンカルストは、羊の群れの様な石灰岩と四季の草花に飾られた、夢のある丘。

所 高岡郡佐川町甲紫円
問 0889-22-1110(佐川町教育委員会)



化石が物語る! 35億年の歴史と未来

佐川地質館

化石の宝庫「佐川盆地」をはじめ、高知県内の地形・地質を紹介。
四国4億年の歴史や珍しい化石のコレクションを展示。
動く恐竜「ティラノサウルス」や動く大陸装置、「生きている化石」のオウム貝・カブトガニなど地球と生命の歴史をいろいろな角度から楽しく学ぶことができる。



えびす祭り

桜の名所「奥の土居」にある恵美須神社の「大祭」(佐川十日えびす・1月)で、200人余りの「おなばれ」が商店街を練り歩き、商売繁盛・五穀豊穡を祈願する。



文殊大祭

7月の文殊大祭は、乗台寺の境内で納涼を兼ねて行われる夏の夜祭りで、「知恵授けの文殊様」と町の人たちに親しまれている。



スポーツパーク佐川

天然芝のサッカー場。観客席も芝席、駐車場完備。

所 高岡郡佐川町甲238番地1
問 0889-22-1110
(佐川町教育委員会)



佐川町立桜座

客席数400人のホールやスタジオ、練習ホールが完備された文化会館。

所 高岡郡佐川町甲346番地1
問 0889-22-7878



佐川地質館の動く恐竜「ティラノサウルス」が迎えてくれる。

躍動するいにしへの命、静謐なる美、
悠久のときを感じる

佐川地区

虚空蔵山に抱かれた緑豊かな田園地帯、
吹き抜ける風が季節のうつろいを語る

斗賀野地区



佐川町南部の斗賀野地区。
のどかな田園地帯を見下ろすようにそびえるのは、標高674・9メートルの虚空蔵山です。

お天気のいい日には、南は室戸岬から足摺岬まで太平洋を、北は幾重にも重なる四国山地の山並みを目にすることが出来ます。

頂上までのハイキング、神秘的な滝や天文台、観光農園など、休日のおでかけにピッタリの心弾むエリアです。

落差8mの美瀑
白水の滝
大蛇伝説のある白水の滝



五位山緑地公園

約100mのローラー滑り台やフィールドアスレチックなどで体を思いっきり動かすと、心が柔らかくなる。



龍王公園

通称・たこ公園。494号線須崎市境界のトンネルを抜けると直ぐにあり、子供たちに大人気の「たこ」の滑り台が目印。



虚空蔵山

山頂からは高知市～中土佐町にかけての太平洋を一望できる。中腹には現在は稼働休止中だが、昭和3(1928)年に彗星を発見した山崎正光氏を記念する天文台がある。

所 高岡郡佐川町東組2215
問 0889-22-1110
(佐川町教育委員会)



虚空蔵山観光農園 フルーツランド

山のてっぺんの観光農園。展望のよい山の上で、梨、みかん、りんごの味覚狩りが家族で楽しめる。展望台有り。

所 高岡郡佐川町東組824番地3
問 0889-22-3505



田園風景の花飾り ケイトウ花街道

およそ1.5kmの沿道に植えられた1500本ものケイトウ。「地域を活気づけよう」と、地元の人々が20年以上前に始めた。
10月から本格的に見頃を迎える。



フクリンササユリ

明治26(1893)年、佐川町の固体をもとに牧野博士が命名。山地草原に生える多年草ササユリの葉が白く縁取られたもの。



白倉・美都岐の花取踊り

11月に白倉・美都岐神社の2つの神社で行われる中世から伝わる踊り。

所 高岡郡佐川町中組156(白倉神社)
高岡郡佐川町東組2020(美都岐神社)



たらふく秋まつり

毎年11月、北海道北見市(旧常呂町)の鮭やホタテなどの物産販売や、約20店舗の屋台での地元住民による佐川の味の販売などおいしいものが盛りだくさん。



脱藩の道

1862年坂本龍馬脱藩の時に通った道といわれている。佐川町斗賀野から朽木峠を経て津野町へ。



秘境でアウトドアレジャー

長谷溪谷

尾川地区小奥にある、知る人ぞ知る長谷溪谷。
夏にはインストラクターと共にシャワートレッキング
(沢のぼり)が楽しめる。もちろん秋には紅葉も。

所 高岡郡佐川町古畑耕小奥

営 梅雨明け～8月(5名以上)

間 シャワートレッキングの申し込みは

090-9779-7459(ネットワーク佐川・大原)



馬頭観音

古畑観音堂内に祀られている2体の仏像は共に聖観音であるが、古くから
「古畑の馬頭観音」といわれ篤く尊崇されていた。
文化年間に牛馬耕が農家で盛んに行われるようになり、この頃から馬頭観
音と呼ばれるようになったと推測される。

所 高岡郡佐川町古畑耕古畑



おがわ秋祭り

毎年秋に開催される、地区のお祭。
尾川地区のグルメも楽しめる。復活し
た尾川踊りや、花火も必見。



ふれあいの里 尾川

地元女性グループが地区の高齢者の
ために配食サービスなどを行う高知県
集落活動センター。

所 高岡郡佐川町本郷耕381

間 0889-22-1994



残したい石積み的美と生活の知恵

古畑棚田

通称“石垣の里”とも呼ばれる古畑地区、美しい景観の棚田が今も
残っている。

地震や台風でも崩れることがないほど石積みがしっかりとっている。

所 高岡郡佐川町古畑耕古畑

佐川町西部の尾川地区。
急峻な土地での昔ながらの生活風景
は、映画のロケ地としても選ばれるほど
美しい景観を誇っています。
隠れた名勝として人気の長谷溪谷
(ながたにけいこく)では、大小さまざま
な滝が、夏は新緑、秋は紅葉の木漏れ日
を受け、輝きます。
降り注ぐ水と空気を一身に浴びなが
ら沢をさかのぼるシャワートレッキング
も新しいレジャーとして人気です。



旧石器時代の住居跡

不動ガ岩屋洞窟遺跡

尾川地区西山の四国を横断する石灰岩帯に属する洞穴
にある遺跡。この洞内に不動尊像が祀られていることから
不動ガ岩屋と呼ばれている。

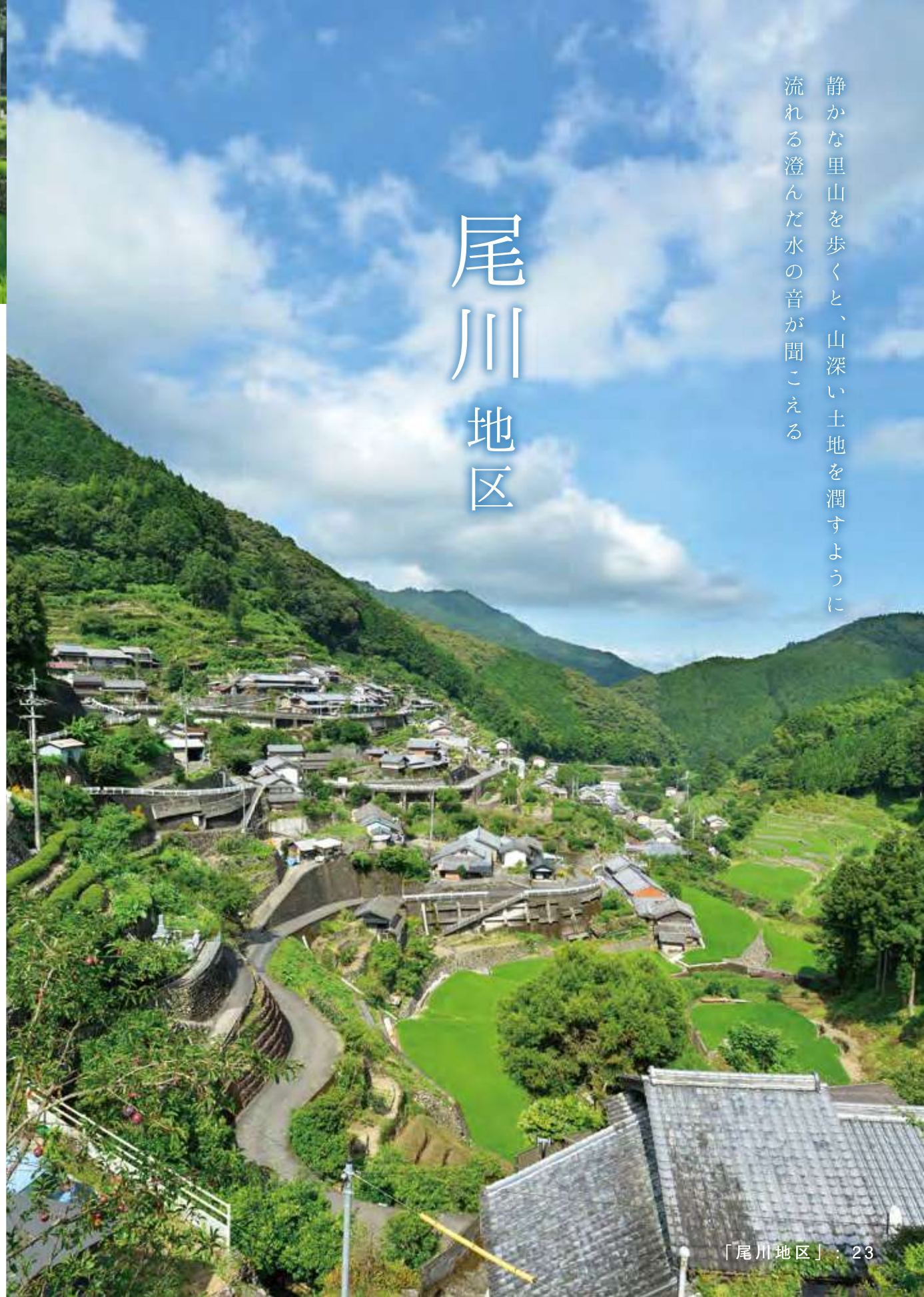
この遺跡から出土した土器は縄文時代草創期のもので、
国内の土器としては最も古い一群のものである。
国指定重要文化財(史跡)。

所 高岡郡佐川町西山耕

間 0889-22-1110(佐川町教育委員会)

尾川地区

静かな里山を歩くと、山深い土地を潤すように
流れる澄んだ水の音が聞こえる



太陽と山と大地が育むふるさとの味、
美しい景色とともにかみしめる

黒岩地区



佐川町北部の黒岩地区は、山に囲まれ盆地のようになっているため、昼夜の寒暖差が大きく、お茶や果樹の栽培に非常に適しています。

中でも盛んなのが新高梨。地区には、新高梨とりんごの収穫体験ができる果樹園もあり、家族や友だちと一緒に楽しみながら味わうこともできます。

特産の梨やイチゴを使ったジャムや農家の方たちが開発したフルーツを使ったスイーツも絶品です。



佐川の秋の味覚は、梨の王様

新高梨

黒岩地区では、山地の斜面などを利用して、新高梨の栽培が行われている。
大きさが赤ん坊の頭ほどもある大きな梨。その大きさと対照的に、味は非常に繊細。

いちご

佐川町のイチゴは上品な甘さが魅力。糖度の高さ(平均糖度14度)で知られる佐川町の「とちおとめ」「紅ほっぺ」「ゆめのか」は大人気。



佐川茶

黒岩地区は、昼夜の寒暖差が大きく春と秋には頻繁に霧が発生する昔からのお茶どころ。
茶の栽培に適した環境で作られた「佐川茶」は、味・香り共に素晴らしいと好評。



青空広がる果樹園でフルーツ狩り

土本観光果樹園

安心安全をモットーに農業を控え、有袋栽培をしている。
樹上完熟の甘くて水分たっぷりの梨やりんごの丸かじりが好評。

所 高岡郡佐川町ニツ野1308
問 0889-22-0206



がんばる平野・巨大かかし

秋に地元の豊作を願って立てられる高さ約6mの巨大かかし。(平野みどりちゃん)



四ツ白の太刀踊り

(高知県指定保護無形民俗文化財)

四ツ白部落の氏神様仁井田神社の秋祭に奉納されている太刀踊り。

所 高岡郡佐川町四ツ白1098
(仁井田神社)



瑞応の盆踊り

(高知県指定保護無形民俗文化財)

約400年以上前から、黒岩地区瑞応の法相宗瑞応寺境内で奉納される盆踊り。豊年を祝って、豊穡の感謝を神にささげ、奉納するために踊る仁淀川流域の代表的な盆踊り。

所 高岡郡佐川町瑞応133(瑞応寺)



加茂の一位檜の木

加茂神社境内にあり、樹高約30m、樹齢推定350余年の老樹である。

所 高岡郡佐川町加茂4145



夏の風物詩

聖神社の火文字

神社境内北面の嶽に提灯で火文字が点灯される。毎年旧暦6月15日の週の日曜日の夕方から聖権現嶽山頂で氏子により、いろいろな火文字が画かれる。この風習がいつ頃どのような理由で始まったかは定かでないが、江戸時代から続くと伝わる。

所 高岡郡佐川町加茂4588



バイカオウレン群生地

地区の住民たちが大切に育てているバイカオウレン。



加茂の小川堤のコスモス

JR加茂駅前の三叉路を南へ200m、川沿い約1kmに渡って咲く。



彼岸花の土手

加茂地区の土手沿いの田園風景を彼岸花が鮮やかに彩る。

深尾氏お留木の楊梅(やまもも)

佐川領主深尾氏がお留木とした白実の楊梅。当時は領民の近寄ることも許されない木で実の熟する頃、殿様はここに召し駕籠をすえて楊梅狩りに興じたという。

加茂地区

光る風、そよぐ木々、ただよう花の香、
自然の中を歩きたくなる。



歴史を刻む 佐川の桜

春、まだ底冷えのする頃、夕暮れの佐川のまちに灯がともります。

佐川町の桜は、文化・文政年間（1800年頃）、佐川地区と加茂地区の境にある霧生関に桜を植え、花の遊園地を創ったことに始まります。以来、佐川は長い間、「桜のまち」として広く知られ、毎年春を迎えるたびに、人びとの心を潤してきました。

ぼんぼりの灯りに優美に浮かぶ夜桜に、人びとは酔いしれ、たおやかに流れる川に沿う桜並木は春の門出を祝います。

古くから続くこの風景は、まちの人びとから人びとへと永きにわたり守られ、伝えられています。



まちを見守る桜は
先人からの贈り物





多くの維新の志士や偉人を輩出

名教館(めいこうかん)

安永元年(1772)佐川領主、深尾氏が家塾として「名教館」を創設。のちに郷校として土分の教育に資した。
天保元年(1830)東元町に広大な校舎を建設。以来幕末まで数多くの人材を育成し、佐川の文運を高めた。明治に入り、廃藩置県・学制の発令により「佐川小学校」と改名し、中本町に佐川尋常小学校としての校舎の建築、玄関を移設した。平成25(2013)年上町地区へ移築。

所 高岡郡佐川町甲1510

問 0889-20-9500(さかわ観光協会)



名教館跡

現在は、牧野富太郎博士揮毫の碑が建つ。

所 高岡郡佐川町甲1250番地13

江戸時代、領主深尾氏は代々、教育に力を入れており文武両道を推奨してきました。六代茂澄公が「家塾」を名教館として開き、七代繁寛公が郷校とし、家臣の子弟たちを学ばせました。ここから、後の田中光顕、牧野富太郎ら、多くの文教人が巣立っています。
佐川の歴史、そして風土が生んだ偉人たちの業績は、いまでも町の人々の誇りとして息づいています。そして、その魂は、時代を超えて未来へと受け継がれていくことでしょう。



文教のまちの礎

伊藤蘭林の寺子屋

幕末から明治期にかけ、牧野富太郎をはじめ、それぞれの分野で大成した者の多くは伊藤蘭林の塾で学んでいる。

佐川の教育の礎を築いた偉大な教育者で、その寺子屋が復元され、佐川郵便局の背後に建っている。

所 高岡郡佐川町甲1631番地1

問 0889-22-1110(佐川町教育委員会)



伊藤蘭林



伊藤蘭林顕彰碑

所 高岡郡佐川町甲目細



文教のまちで
文教人の
魂に触れる



脱藩志士集合の地

赤土峠

元治元年(1864)8月14日、浜田辰弥(後の田中光顕公)橋本鉄猪、池大六、伊原広輔、那須盛馬の五名赤土峠に集合。仁淀川を渡り、横島から清水、稲村路を辿り黒森山、池川から用居を経て伊予に越え、大洲から安芸の宮島へ渡るという船を雇ったが、沖へ出ると一刀を抜き放ち船頭に突きつけ「この船を長州へやれ、、、」かくて船は海上一路に長州三田尻の港に進んだという。



坂本龍馬や中岡慎太郎とともに薩長同盟の実現に尽力。龍馬と慎太郎が暗殺された際、現場に駆け付けた一人としても知られています。明治新政府では、陸軍少将、初代内閣書記官長、警視總監などの要職を歴任。明治31(1898)年からは、12年間という長期間宮内大臣をつとめました。政界引退後は、維新で亡くなった志士たちの顕彰に殊に尽力します。

真心の赤土坂に
まちあわせ いきてかへらぬ
誓なしてき

志士たちの顕彰を目的として、武市半平太の雅号を冠した「瑞山会」を結成し、記念碑建立や伝記の編集を進めるなど、志半ばでこの世を去ったかつての同志らの地位や名誉を回復するための活動を熱心に行いました。この活動の中で残された遺族の名誉を回復し、さらに生活面でも救済しており、当時困窮していた武市の妻・富とその家族は田中光顕の活動により救われたと言います。さらに、田中が集めた資料の多くは、青山文庫(現佐川町立青山文庫)に寄贈され、いまも当時の貴重な記録として展示されています。無念の同志たちの功績を復活させた郷土の偉人は、昭和14(1939)年、97年の生涯を終えました。従一位勲一等伯爵。号は青山。



田中光顕生誕の地

田中公園

橋本鉄猪、池大六の屋敷地跡を田中が買い取り、大正2(1913)年に記念碑が設けられて公園となった。碑文には、青山文庫の前身、川田文庫を設立した川田豊太郎の名も見られる。表の「田中光顕公宅跡」の書は、山口県出身の山県有朋、裏の文字は、三野村(現佐川町)出身で通信省に勤めた土居通豫が書した。

所 高岡郡佐川町甲上郷



志を継承し、維新を生き抜いた



金峰神社

牧野博士が幼少の頃、この神社の境内でバイカオウレンなどの植物を採取し、植物への興味を広げていった。その後の一生を決定づけた重要な場所ともいえる。

所 高岡郡佐川町甲1896



サカワサイシン(町花)

低山の林内に生える多年草。葉は長柄があり、卵形～広卵形で長さ6～10cm、基部は深い心形。雲紋が多く表面には短毛がある。花は大きく直径3～4cm、萼裂片の内側は暗紫色で、ふちは白色のふちどりがある。



ワカキノサクラ(町木)

牧野博士が佐川町尾川で発見、命名した桜。高さ20、30cmの幼木でもちゃんと花をつけ、花の色、葉の色といい、山桜を小さくしたような桜。



解剖顕微鏡



愛用した絵の具
イギリスのウィンザー&ニュートン社製



植物写真を
整理した小箆箱



バイカオウレン

富太郎を植物研究へ駆り立てたのは金峰神社のバイカオウレンかもしれない。生家の裏山にある石段を上れば、小さくかわいい花のバイカオウレンの群生がある。

ふるさとで
牧野博士を
感じる

植物学者・牧野富太郎の生まれ故郷、佐川町には、町のあちこちに牧野博士ゆかりの場所があります。自ら「草木の精」と名乗るほど植物を愛した牧野博士の思いを感じながら、巡ってみてはいかがでしょう。



日本の桜名所100選、高知を代表する花見どころ

牧野公園

明治35(1902)年、植物学者牧野富太郎先生が東京染井で見つけた桜ソメイヨシノの苗を佐川町に送り、それを地元の有志が青源寺の土手などに植えたことに始まる。

昭和33(1958)年に公園内の町道が完成したときに「牧野公園」と称することとなった。中腹には、富太郎と田中光顕の分骨墓がある。

所 高岡郡佐川町甲2458



日本の植物学は、ここからはじまる

牧野富太郎ふるさと館

展示室では、博士の遺品や直筆の手紙、原稿等を展示している。

所 高岡郡佐川町甲1485(牧野博士“生家跡”)

休 月曜日(年末年始:12月29日から1月3日)

※祝日の場合は開館し、翌日は休館。

営 9:00～17:00

問 0889-20-9800

料 無料

P なし

Habenaria radiata Thunb.
サヤサリ

後に、「日本植物学の父」と称された植物学者・牧野富太郎博士が産声をあげたのは、文久2(1862)年4月24日、かの坂本龍馬が土佐を脱藩して一カ月後のことでした。

土佐国高岡郡佐川本村(現在の佐川町)に、父・佐平・母・久寿のもと誕生。生家は酒造業と雑貨商を営む裕福な商家でしたが、幼くして両親を亡くし、祖母の手で育てられました。

豊かな自然環境の中で育った富太郎少年は、幼い頃から植物に興味を持ち、小学校を2年で退学するも、植物採集をしたり、書物で植物の名前を覚えたりと、独学で植物学の研究を続けました。

23歳で上京。東京大学理学部植物学教室への出入りを特別に許され、以後、東京と高知をたびたび行き来しながら植物分類学の研究に打ち込みます。

26歳のとき、友人と『植物学雑誌』を創刊。その2年後、同誌上に共著で記載したヤマトグサは日本国内での最初の新種発表でした。

日本植物学の父

牧野富太郎

96年の生涯において収集した標本は約40万枚。新種や新品種など約1500種類以上の植物を命名し、日本植物分類学の基礎を築いた一人として知られています。

成功を収めてからも、牧野博士はたびたび帰郷し、故郷への思いを生涯持ち続けました。あまり知られてはいませんが、故郷への功績として明治21(1888)年には、郷里の子どもたちの文化向上や科学教育の普及をはかるため、「佐川理学会」を創設。自らも指導にあたるほど、熱心に取り組みました。

明治35(1902)年、佐川に送ったソメイヨシノの苗木は、桜の名所となり、多くの人の目を楽しませています。

春の訪れをつげる愛らしい花、バイカオウレンは、晩年東京で暮らした牧野博士にとって、故郷を思わせる懐かしい花でした。いまも生家の裏山にたくさん自生しています。



写真2点は、高知県立牧野植物園所蔵



ひじ かつ やすし

土方 寧

1859 - 1939
〈民法・イギリス法学者〉

深尾家家臣土方直行の長男として奥の土居に生まれる。名教館に学び東京大学法学部卒業後、イギリスに留学。同大教授として教鞭をとり、大正11年には勅撰貴族院議員となる。

英国法、民法の研究の第一人者で、英吉利法律学校（現中央大学）の創立者の一人。



い どう らん りん

伊藤 蘭林

1814 - 1895
〈儒学者〉

深尾家儒臣伊藤徳正の子として目細谷に生まれる。名教館で学び長じて教授となり、多くの深尾家家臣子弟を訓育したことから、田中光顕、広井勇など、佐川の偉人で蘭林の指導を受けていない者はいないと言われている。維新後の名教館廃止後も終生家塾を開いて多くの子弟を教導した。



もり した う そん

森下 雨村

1890 - 1965
〈編集者・小説家〉

上郷に生まれる。早稲田大学英文科卒。博文館に入り、大正9年「新青年」の創刊に携わる。海外探偵小説を翻訳紹介するとともに、編集者として江戸川乱歩、横溝正史など多くの小説家を世に送り出した。「探偵小説の生みの親」と称される。



かわ だ とよ た ろう

川田 豊太郎

1869 - 1949
〈川田文庫開設者〉

西町に生まれる。明治29年佐川町会議員を務めながら、佐川郵便局長となった。明治43年自宅を改造し「川田文庫」を開設。地方における図書館事業の先駆けとなった。財団法人「青山会」を設立し、田中光顕伯から寄贈された維新関係資料と川田文庫をもって青山文庫を開いた。



ひろ い いさみ

広井 勇

1862 - 1928
〈工学博士〉

深尾家家臣広井喜十郎の子として上郷に生まれる。幼少の頃父を失い、片岡利和（明治天皇侍従）を頼り上京。札幌農学校や米国で学び、東京帝国大学工科の教授となる。港湾築造技術に優れ、「日本近代土木の先駆者」と称されている。



みず の りょう

水野 龍

1859 - 1951
〈移民事業指導者〉

上郷に生まれる。自由民権運動に奔走後小学校教員、県庁員、巡査などを経て、明治38年単身ブラジルを視察、移民事業に乗り出す。明治41年皇国殖民会社を設立、大正10年までに約3万人のブラジル移住を果たした。ブラジル在留邦人より「移民の父」として今も慕われている。



た な か みつ あき

田中 光顕

1843 - 1939 〈政治家〉



くすの き しげ お

楠木 繁夫

1904 - 1956
〈歌手〉

西町に生まれる。東京音楽学校中退後、多くのレコード会社を渡り歩き、昭和10年テイチクレコードでの「緑の地平線」（作曲：古賀政男）がヒットし、一躍流行歌手となった。戦後も「紅燃ゆる地平線」「ハルビン恋し」などヒットを出し、紅白歌合戦にも出演した。



ど い や え

土井 八枝

1879 - 1948
〈随筆家〉

西谷の旧家林家の次女として生まれる。詩人土井晩翠と結婚後、仙台へ。「仙台方言集」「土佐方言集」などを出版。随筆集「藪柑子」では、方言収集の苦労や佐川の思い出、風物などが語られている。



しも や かわ けいすけ

下八川 圭祐

1900 - 1980
〈声楽家〉

黒岩四ッ白に生まれる。佐川高等小学校卒業後、上京し、東洋音楽学校（現東京音大）に入学。藤原歌劇団旗揚げ公演に参加。その後数多くの日本でのオペラ初演作に出演し、常にわが国オペラ界の第一線において活躍。昭和15年東京声専音楽学校創立・校長就任。昭和47年藤原歌劇団総監督就任。佐川町名誉町民（昭和49年）



と やま く に ひこ

外山 国彦

1885 - 1960
〈音楽家〉

西町に外山頼寛の長男として生まれる。高知一中から東京音楽学校予科に進み声楽を学ぶ。卒業後、広島師範学校の教壇に立ち、その後、山田耕作、弘田龍太郎などとコンビを組んでステージで活躍、日本で初めて「独唱会（リサイタル）」を行った人物。門下生として、黒田進（楠木繁夫）、奥田良三、下八川圭祐など多くの人材を育てた。



ふる さわ しげる

古沢 滋

1847 - 1911
〈政治家〉

上郷に生まれる。名教館で学び、維新後、新政府に出仕し明治3年イギリスへ留学。帰国後、板垣退助らと愛国公党を結成、民撰議院設立建白書を起草するが、後に官界に再び入り、奈良、石川、山口などの知事を歴任、明治38年に貴族院議員となった。



にし だに たい ぞう

西谷 退三

1885 - 1957
〈英文学者〉

佐川町西町の豪商に生まれる。札幌農学校に進むが、家業より骨董や読書など趣味に生きる。自然科学に興味を抱き欧米を訪れた際に、特にセルボーンに強い感銘を受け、『セルボーンの博物誌』翻訳をライフワークとした。



まきの とみ た ろう

牧野 富太郎

1862 - 1957 〈植物学者〉

人が文化を生み
文化が人を育てる

佐川の風土と文化が生んだ「文教人」は、いまなお町の人々の誇りとして、文教のまちに息づいています。

その業績をいまに伝えるのは、墓碑や記念碑だけではありません。佐川の人々の心の中に綿々と引き継がれているのです。

イラスト：奈路 道程（高知県出身）

心ゆくまで堪能

佐川の味・宿

佐川町では古くから豊かな水を利用し、さまざまな産物を生み出してきました。
仁淀川の伏流水を使った日本酒。寒暖の差を利用した米や茶、栗などの農産物。地元の乳牛からとれる生乳だけを使った牛乳など。
お土産や贈り物に、ご自宅用に、佐川の味をぜひどうぞ。
駅前にはホテルや旅館もあるので、ゆっくりと滞在して町を満喫してみてください。



さかわかき氷街道

トマトやショウガ、ブラックベリーに苺など個性豊かなかき氷が楽しめる。もちろん地乳(じちち)練乳も。

☎ 0889-20-9500 (さかわ観光協会)



さかわの地乳

町内3軒の酪農家が愛情込めて飼育する乳牛からとれた生乳を吉本乳業で製造。自然で新鮮な牛乳本来の風味を損なわない美味しい牛乳・アイス・鍋・ソフトクリームなど加工品も大人気。

☎《牛乳》0889-22-0158 (有限会社 吉本乳業)
《アイス》0889-22-0172 (横畠冷菓)
《ソフト》0889-20-9500 (さかわ観光協会)



司牡丹酒造株式会社

香りと味わいが絶妙のバランスで調和された淡麗辛口の酒、それが高知を代表する銘酒「司牡丹」。

☎ 0889-22-1211 (司牡丹酒造株式会社)



アイスクリン

バニラ、チョコや抹茶、ストロベリーなど7種類の味とバリエーションが増えいろいろな味が楽しめる。いずれも食感「シャリシャリ」としてあっさりとした味が特徴。

☎ 0889-22-0172 (横畠冷菓)



夢甘栗

「佐川町の富を殖やす助となる」と牧野富太郎博士に言わしめた佐川の甘栗。時代を超えて佐川の名産に。10月初旬～11月中旬ごろ限定の秋の味覚。

☎ 0889-20-0502
(仁淀川流域夢甘栗生産者組合)



虚空蔵山手造りジャム

素材の味が生かされていて風味満点。種類も多く楽しめる。

☎ 0889-22-3505
(虚空蔵山観光農園フルーツランド)



黒岩じるしのプリン

搾りたての味に近い、風味豊かな牛乳「地乳」と佐川町黒岩産の農作物とのコラボ。季節ごとの味わいが楽しめるプリン。

☎ 0889-22-9077 (黒岩じるし)



ブルーベリージャム

地元佐川町で丁寧に作った大粒のブルーベリーをたっぷり使った添加物なしの極上ジャム。

☎ 0889-22-1124 (島崎商事株式会社)



さかわ紅茶「紅BENI」

佐川町に残っている希少な国産紅茶用品種「はつともみじ」に佐川町産「べにふうき」「やぶきた」の茶葉を加え、こだわりのブレンドで仕上げている。

☎ 0889-20-9500 (さかわ観光協会)



俺の佃煮

佐川町産のニラを使用。素材の風味をそのままに安心して召し上がっていただけるよう化学調味料無添加のニラ味のきいた佃煮です。

☎ 090-6284-5262
(株式会社野っぱら工房)

佐川茶

高知は昔からの隠れたお茶どころ。中でも「佐川茶」は、味・香りともに定評有り。

☎ 0889-22-7810 (JA高知県佐川支所)



果実ごろっとジャム

果実をたっぷり使った美味しいジャム。ヨーグルトやケーキに添えるのもオススメ。

☎ 0889-22-0206 (土本観光果樹園)



まるごと高知の 新高梨ドレッシング、 りんごポン酢

梨の王様、新高梨の果実が入ったドレッシング。味はごまだれとバジルがあり、それぞれ新高梨の風味を味わえる。りんごのすりおろしが入ったポン酢も人気。

☎ 0889-22-0206 (土本観光果樹園)



ブラック&ラズベリージャム、 ブラックベリージャム、ソース

寒暖の差が大きく栽培に適した佐川町の土地で育てた栄養価の高いブラックベリーを使ったジャムとソース。

☎ 090-5145-3788
(ヒロの果樹園)



宿泊施設情報

情趣あふれる老舗旅館で くつろぎの時を

創業100年の歴史を持つ宿。風情あるたたずまいの中で心落ち着くひとときを。大浴場、駐車場有り。総部屋数10室。
1泊(2食付き)8,000 円～。



旅館明清館

☎ 高岡郡佐川町甲1059
☎ 0889-22-1955



交通至便の宿で 快適な佐川の旅を

JR佐川駅の目の前にあり、ビジネスや観光にとっても便利な宿。無料駐車場もあるので、車での越しも可。総部屋数12室。
1泊(2食付き)6,000 円～。



ビジネスホテル かりえ

☎ 高岡郡佐川町甲1060
☎ 0889-22-0356



料理自慢の宿で ゆったりステイを

ホテルと旅館の機能を併せ持つ家庭的な宿。前日までに予約すれば、栄養満点の家庭料理を味わえる。駐車場有り。総部屋数9室。
1泊(2食付き)6,000 円～。



米日旅館

☎ 高岡郡佐川町甲1060番地3
☎ 0889-22-0137



